

# マイライフヒストリーを人生の礎に<sup>いかり</sup>

渡邊 洋子

人はだれも「わたしの人生」という時間軸を生きている。「今日」の自分は、過去の一日一日の集積の上に在る。置かれた環境や状況の中で懸命に生きるべく努力しあるいは怠り、試行錯誤を繰り返し、時に自暴自棄になり、一人でまたは家族や友人と笑い楽しみ、悩み苦しむ日々…。長い積み重ねの上に「昨日のわたし」が、なおその上に「今日のわたし」が居る。「今日のわたし」の何気ない行動や言動、各々の経験や判断、努力や関わりなどが「明日のわたし」を創り上げる。これらが「わたしの人生」に「過去—現在—未来」の軸を形成する。

進学、就職、結婚、出産など、人生の「出発」は、時間軸を大きく切り分ける転換点である。ここで「昨日(まで)のわたし」に訣別し、新たな自分を生きるのである。「今日のわたし」は「昨日までのわたし」から生まれ、同時に「明日のわたし」への新たな光を浴び始めてもいる。時の流れに身を委ね<sup>ゆだね</sup>がちな多くの人は、この時間軸を意識しない。

「わたしの人生」(マイライフ)は、その日その日の過ごし方や時間の使い方(ライフデザイン)とその蓄積(ライフヒストリー)がタテ軸とヨコ軸をなす。「出発」を契機に、記憶や思いとともに自らの「ライフヒストリー」を書き起こす営みは、この時間軸をたどる「人生の振り返り」(省察)の作業であり、そこで浮き彫りになる「自分らしさ」「自分らしい生き方」を問うことでもある。だが時には「出発」後もさまざまな事情から、仕切り直し「再出発」することも生ずる。「再出発」は、色々な経験や葛藤を経て、挫折や失敗から多くを学ぶ中で培われた人生知の数々を糧とする。そこにこそ「わたしらしさ」の真髄<sup>しんずい</sup>がある。

「出発」「再出発」が刻み込まれた「マイライフヒストリー」は、「マイライフ」を豊かに彩るものであり、人生や生き方に逡巡した人へのアンカー(礎)ともなる。この春、晴れやかに「出発」「再出発」を迎える人々を祝福したい。



## PROFILE

わたなべようこ：新潟大学創生学部教授、京都府立医科大学・京都大学客員教授。博士(教育学)。専門は生涯教育学、専門職(医療者)教育。京都大学等を経て2017年より現職。主な著書に、『近代日本の女性専門職教育—生涯教育学から見た東京女子医科大学創立者・吉岡彌生』(明石書店、2014)、『生涯学習概論』(編著、ミネルヴァ書房、2014)、『生涯学習時代の成人教育学—学習者支援へのアドヴォカシー』(明石書店、2018(2002))等。